

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190400016		
法人名	羽島企画トータルケアMama's		
事業所名	グループホーム ママーズの家		
所在地	羽島市竹鼻町駒塚4番地1043		
自己評価作成日	平成21年12月29日	評価結果市町村受理日	平成22年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2190400016&SCD=32>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成22年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの在宅生活の延長として、現在持ってみえる力を最大限活かし、第二の家としてのママーズの家での生活を、心豊かに過ごして頂きたいと職員一同努力しています。ご家族との絆も大切にしながら、ホームでの生活に楽しみを持って頂くよう、工夫しています。地域との絆により一層、力を入れて取り組みたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は、ハウスクリーニング・家事請負業から始め、老人や障害者との関わりを持つにつれ、要介護者の生活全般をケアすることの重要性から介護事業への参画となった。きめ細かいサービスの視点と特性は、施設長・管理者は元より全職員のケアに当たる姿にも現れており、チームワークの取れた安定したサービスの提供が行われている。ホームの祭りでは全職員による演芸が行われ、利用者の笑いを誘っている。身体的なりハビリは少ないものの、全職員が同じ方向を向きケアすることで、入居時より利用者の意志は明確となり、認知症の進行も抑えられており、利用者に寄り添って日々支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	弊社の理念である「寄り添う介護 思いやりを かたちに・・・」に「共に地域で生きて行くために」を加えている。ミーティング等で理念の重要性を確認している。	法人の理念に加え、地域との共生の精神がうたわれ、第二の我が家のように利用者が暮らせるよう、日々のケアの中でも職員同士が確認し合い、住み慣れた地域での生活の継続に繋げる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、地域の行事については、運営推進会議や区長様や民生委員さまと相談し、参加している。地域のお祭りの子供みこしやふれあいサロン会との交流に努めている。	地域での散歩や挨拶等、ホームの存在を住民に知ってもらうことから始め、ふれあいサロン会とも交流があるなど、今では地域の人々が気軽に遊びに来るような存在となった。また、住民の介護に関わる相談やちょっとした困りごと相談などにも応じられるよう福祉情報の発信地となるべく努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、中高生のボランティアの受け入れを行ない、認知症介護の相談も受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、ホームの様子や取り組みを報告し、行政と推進委員様の意見を参考にし、サービス向上に努めている。	2ヶ月に1回開催され、区長・民生委員・地域包括支援センター・家族代表など多くの参加が得られ、消防訓練や行事の案内など、ホームからの報告に留まらず、入居費用の相談や介護認定者の人数など、参加者からも様々な意見が活発に交わされ、地域福祉の向上にと活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員(月一回)の来訪等で、相互に情報交換し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市の介護相談員が定期的に来訪しており、利用者の話を聞いてもらい、気づいたことの報告を受けながらホームの運営に活かしている。	地域福祉の向上には行政との連携が不可欠である。運営推進会議には市の福祉担当者が積極的に参加してもらえよう働きかけ、日頃感じている制度上の問題点や現場で明らかになった課題等、市と連携して取り組まれない。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全性の観点から、玄関の施錠はしている。ベッドの四点柵については、ご家族から身体拘束の同意書を頂いている。	施錠の弊害は理解しているが、現在は利用者の状態と安全面を考慮し、外側からは自由に入れるような施錠をしている。現状を安易に容認せず、状況によって開放することも考慮している。ベッドから転落の恐れのある本人の家族にはその旨を説明し、同意書を取っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで高齢者の虐待防止について研修し、遵守するように取り組んでいる。		

岐阜県 グループホームママーズの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はいらっしゃらないが、ホーム内外の研修によって理解し、支援できるように心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項を十分に説明し、理解して頂いている。お尋ねについては、傾聴し、検討している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からご意見、ご要望等を頂いた際には、可能な限り対応し、経過、結果を伺っている。訪問された際や家族会で話し合いの機会を持ち、ご意見を運営に活かしている。	法人の全サービスは年に2回、家族アンケートを行い、結果を事業所毎にまとめ改善に繋げている。苦情箱を設置しているが、施設長や管理者には気軽に意見が言いやすいので、ホームに直接届くことが多い。年に2回家族会を行い、個別の面談会も行っている。	家族面談を介護計画のみならず、家族の声を聞く機会にも活用されたい。ホームの様々な取り組みや努力を家族に伝え、双方向のより良い関係づくりに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日頃から休憩時間等にコミュニケーションを図り、意見や提案を聞いている。	管理者やリーダーは職員あつてのケアであることを深く認識し、職員の様子に常に気を配り、どんなことも話し合える信頼関係ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の業務等を把握し、向上心を持って働けるよう職能評価を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内のミーティングは全員、事業所全体のミーティングは交代で参加している。社外での研修も必要と思われるものは、参加するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム協議会や市内のグループホームの交流会等に参加し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や求めていることを把握する為、毎日の声掛けと見守りを大切にして、信頼関係を築けるように全力を尽くしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦勞に耳を傾け、サービスの利用状況を把握し、ご家族の気持ちを受けとめる事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の実情と要望を基に、これまでの生活に最も馴染めるようニーズに対応可能なサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日必ず、目線を合わせて、会話をし、一緒に行動しながら、楽しく和やかな生活が出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常生活を写真入のお便りやケアプランでお知らせし、話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方と交流が途切れないよう、いつでも来て頂けるように支援している。	入居が長期になると共に、出かけることが難しくなった人には、知人や友人に呼びかけ、ホームに遊びに来てもらうよう支援をしている。同じ建物内にあるデイサービスの利用からグループホームに入居する場合も多く、馴染みの職員によるケアは利用者の安心感を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、お茶、食事、レクリエーションの時間はもちろん、朝の挨拶、就寝前にも職員が間に入って、利用者様同士の関係が円滑になるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方にも、近況を尋ね、相談、支援できる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望、声を真摯な気持ちで受け止め、スタッフ全員が利用者様の立場に立った行動が取れるように、努めていくと共にコミュニケーションを心掛ける。	口数が少ない利用者には職員はゆっくりと二者択一で質問を行うが、ほとんどの人は自身の思いや意向を表出することができる。利用者の日々のつぶやきや要望を日頃の表情や会話から読み取り、申し送りノートや日報に記載し、全職員が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴をご家族様や主治医、ケアマネジャーなど関係者から、聴き取るように心掛けると共に、過去の情報を面会時に尋ねて、把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活のリズムを把握し、記録を残しながら、行動や小さな動作から出来ること、理解していることを暮らしの中で、見落とさず注目していく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中でのご本人の声を傾聴し、ミーティング時のカンファレンスでチーム対応が出来るプラン作成を心掛けている。	利用者と家族の希望や意向を訪問時や電話などで十分に聞き、細かい情報は日々の申し送りで報告されている。ケア会議を毎月行い、ケアの方針を決め、介護計画の作成をしている。見直しは3ヶ月と決めず、小さな変化でも見直しを行うなどきめ細かく配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者様の体調および状態の変化を個々の介護記録や業務日誌に記載し、職員間の情報共有に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人とご家族様の状況や要望に向き合った暮らしを継続する為に、外出、外泊の要望に応えるようにしている。		

岐阜県 グループホームママーズの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員様のご協力によるふれあいサロン会との交流会、公民館のサークルのボランティア、地域の方々との協働を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の思い、希望に添って、ホームの主治医のほか、掛かり付け医、眼科、歯科、専門医の受診、往診の支援を提供している。	協力医による往診は月に2回行われ、歯科や整形外科などの受診には職員が同行している。24時間体制で主治医との連絡が可能であり、看護師も配置されて利用者の健康面に配慮している。医療との連携は確実だが、家族の負担を考慮し、医療連携加算は取っていない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行なえるようにしている。看護職員がいない時間は記録をもとに、確実な連携を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療機関へ支援方法、記録等の情報を提供し、退院に向けて、病院関係者と検討し、平常の生活が出来るように援助する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会の個人面談の際、ご家族のご意見を傾聴し、ホームが対応しうる最大のケアについて説明している。急変した場合は、直ぐ対応して頂けるよう医療機関とも密に連携を図り、対応している。	同じ建物内にデイサービスがあり、機械浴が使用できることから、重度化にも対応可能としているが、医療行為が発生した場合は、他施設への転出を依頼している。	医療行為が発生した場合の対応を入居時に家族へ説明しているが、利用者の状態や支える家族の状態により異なるため、家族面談の際に繰り返し説明を行い、確認書の取り交わし・次の転居先の支援も含め、ホームとしての方針を明確化されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当の勉強会に参加し、体験習得するようにしている。夜勤はマニュアルに添い、対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市の消防署の協力のもと、避難訓練を行い、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を利用者様と共に年2回行っている。近隣の方々や地域の消防団とも連携を図っている。	年に2回の消防署の指導による訓練は消火器の使用法など利用者や住民も参加したり、夜間を想定し、職員同士で、災害時に救出する訓練も行っている。食料・飲料水・毛布なども備蓄している。	さらには、家具の固定・職員出勤の方法・災害時の連絡方法などを全職員が把握できるよう、災害時の勉強会等も今後検討し、いつ何が起きても迅速に対応できるよう日頃から心掛けられたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの際に、利用者様との日々の関わり方を勉強し、職員の意識向上と利用者様を尊重し、プライバシーを損ねないよう、徹底している。	利用者には、目線を同じ位置にしたり耳元で声をかけるなど、尊厳を守る配慮を行っている。ホーム便りには行事ごとの利用者の写真が多く載せられているが、家族から同意を得た上で写真を公開するなど、個人情報を守る姿勢も整えられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側の決めたことを押し付けず、些細なことでも利用者様に複数の選択肢を提案し、決めていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まっているが、利用者様の体調、気持ちを尊重して、生活していただくよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回、ヘアカットを行なっている。衣類は基本的に本人の意向で決めており、自己決定が難しいと思われる利用者様には一緒に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けにより、台拭き、おしぼり作りを手伝って頂いている。食事が終わる頃には、下膳してくださる方もあり、一緒に行なっております。職員も利用者様とメニューの内容等を会話しながら、共に食べています。	配食業者による献立であるが、週に1日はホーム独自の献立を利用者の好みも取り入れ調理している。台所仕事を得意とする人には野菜の下準備をしてもらい、月に1回、様々なおやつ作りを楽しんでいる。職員も介助しながら、おやつや食事作りを利用者と共に談笑して行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を毎日チェック表に記録、個々の状態に合わせて、食事内容を考慮している。利用者様のペースに合わせて、摂取支援している。水分摂取が少ない利用者にはいつでも摂っていただくよう、促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをし、口腔ケアをして頂いている。個々の能力に応じて、職員が見守り、時には介助している。		

岐阜県 グループホームママーズの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、時間や排泄のパターンを把握し、トイレ誘導している。また尿意の無い利用者様にも時間を見計らって、さりげなく誘導している。	職員の努力により、入居時の排泄状態が維持できている人、夜間も自分で起きてトイレに行けるようになった人や自力で排便できるようになった人が多い。排泄チェック表で細かく本人のペースを把握し、さりげなく声をかけている。全員の排泄を個別に拾い上げ、利用者の体調管理も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取量をチェック表に記録し、職員と看護師が情報を共有している。朝食には乳製品を採り入れ、リハビリ体操、レクリエーションで身体を動かして、自然に排便が出来るように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予定日をお知らせして、ご本人の希望に合わせ、いつでも入浴していただけるよう、支援している。	週に2~3回の入浴を、その日の利用者の様子や体調によって、デイサービスの機械浴と個浴を使い分けて入浴してもらっている。利用者の入りたい時間にできるだけ添えるよう職員の配置も考慮し、ホームでの楽しみの一つとして入浴が位置づけられるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜の睡眠状態、日中の疲れ具合により、個別に休息を取って頂いている。午前中はリハビリ体操やレクリエーション、夕方からは穏やかな時間を過ごして頂けるよう、一日の生活リズム作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等、個人の病歴、また投薬リストの情報を職員全員が把握した上で、支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を活かし、得意分野で一人一人の力を発揮して貰えるよう、援助している。洗濯物を畳んでいただいたり、おしぼりを作っていたり、また色塗り、ちぎり絵やカラオケなどを提供し、楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その季節に応じた場所に、お花見に出掛けたり、希望に応じて買い物の外出支援をしている。天候に合わせて、屋外で食事を取ることもあります。	四季おりおりの花や季節を思う存分味わえるよう利用者と一緒にドライブをして楽しみ、その帰りには外食も行っている。天候によってはホーム前にテーブルを出し、おやつや食事を摂るなど、利用者に少しでも楽しみをと全職員が努力をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預り、外出時は御自分で支払っていただけるよう、持って行って頂く。日常生活の中では、納得いただけるよう、対話を大切にしている。		

岐阜県 グループホームママーズの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の絆を大切に、毎月のお便りを写真入りにしている。年賀状や絵手紙等もやり取りできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1月～12月、季節のもの、行事に即したものを一緒に制作し、フロアに展示している。外出やイベント時の写真を廊下に展示している。	明るいリビングには利用者が書いた絵や作品・外出時や行事の写真が飾られ、それらを眺めながら利用者と職員は思い出話に花を咲かせ、ゆったりとくつろげる空間となっている。玄関前や廊下の隅にはソファが置かれ、利用者同士や1人で過ごせる時間が持てるよう配慮もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、廊下、リビングなどにソファを置き、活用して頂いている。リビング、廊下など、花を飾っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、個々の希望されたなじみのものを入れ、ご家族様との写真、書道、絵画の作品などを見やすい所に置いて、心地よく生活いただけるよう、配慮している。	天窓から光が差し込み、北側の居室も明るいよう設計されている。ベッドや机、椅子はホームの物であるが、自宅から持ち込んだ筆筒やロッカーの上には、手芸品や作品が置かれている。服選びが好きな利用者には、安全のためクローゼットのドアをはずして、自由にファッションを楽しめるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室など迷われる方には、大きく目印等をつけたり、状況に合わせ、整備している。		